



三春中学校だより

第6号

発行日 令和元年5月10日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【季節は移ろい、成長が実感できる季節となりました！

～三春中学校だからできる質の高い教育を子どもたちに。～

福寿草、梅、桜、芝桜、胡蝶蘭、そして名前のわからない花々。厳しさ寒さを乗り越え、生命がその息吹を再び感じる季節となりました。校舎の内外にもさまざまな花が見られ、それと同じように、その中で活動する子どもたちも、輝きの時を迎えています。学校は年度末、年度はじめの1年で最も慌ただしい時期を過ぎ、学習に、部活動に、中体連の各種大会にと、これまでの積み重ねの成果を発揮できる季節を迎えています。

目の前のとりあえずやらなくてはならない事柄に翻弄されることなく、子どもたちの教育の充実が努めてまいりました。学校だよりの紙面において幾度もお知らせいたしますとおり、子どもたちはすくすくと、確かな成長を見せています。『命を大切に』『学びの環境づくりを』『その一言を大切に』という3つの集団生活のルールを子どもたちはしっかり守って生活できています。すばらしい子どもたちだからこそ、これからも、『命を大切に』質の高い『学びの環境』の中で、『その一言』を意識して発し、三春中学校らしい質の高い教育を心がけてまいります。



【先輩から後輩へ！～後輩からの心からの信頼は先輩の心を込めた働きかけから生まれる。～】



上の写真の子どもたちの姿は、以前お知らせした先輩と後輩の『共に』ある実際の姿です。思春期の子どもたちの揺れ動きを総称して、『自分探しの旅』と表現する先生がいます。自分はどこから来てどこへ行けばいいのか、温かな心のつながりとは何で、どのようにすればその姿を表現することができるのか、お父さん、お母さんもそうであったように、大人からみればなんと言おうことのないことでも、真剣に悩み、苦しみ、不安になってしまいます。大きな石の原石が、山を離れ、川を下る中で、あっちにぶつかり、こっちに突っかかり、やがて、角のとれたまあるい石になるように、子どもたちは自分というものを確立していくのです。

反抗期は誰もが通り、逆に、通らないことで将来的に支障を来すこともあるそうです。自分というものがよくわからず、自身を過大評価したり過小評価したりしてしまうのでしょうか。私の経験から言うと、どんなに不安定な時期を過ごした生徒も、本気になって関わってくれる存在がいればいるほど、ちゃんとしっかりした考えをもって、立派に卒業していきました。その本気で関わってくれる存在が、家族であり、学校の先生方であり、先輩であり、後輩たちでした。
その場をつくり、そこで学ぶことを大切にしてあげるのが学校だという認識をもって、先輩・後輩の間の学びを充実させてまいります。

【『体フェス』、“がんばる”、“協力する”、“あきらめない”！】

“がんばる”、“協力する”、“あきらめない”とは、開会式で校長からお話したメッセージでしたが、生徒たちにとっては“当たり前”のことでした。その競技への取組の姿にそれが表れていました。腰にしっぽをつけて体育館中を走り回る姿、宅配荷物を抱えて疾走する姿、タイミングをそろえようと縄に合わせ友達に合わせてジャンプする姿、竹の棒を次から次へと引っ張りに行く姿、どの競技にも全力で取り組む姿があふれていました。

雨模様のため午前中は体育館で、午後は天候が回復し、校庭で競技を行いました。大縄跳びでは、級友と協力し、1回でも多くクリアしようと協力したり、引っかかった級友に「大丈夫だよ。」と励ましてあげたりする姿が見られました。午後のリレーでは、学級の代表選手ばかりでなく、先輩が後輩のがんばりを応援する姿も見られました。

『借り人競争』で一緒に走ってくれた生徒さん、とてもうれしかったです。ありがとうございます。とてもステキな『体フェス』でした。

